

自然体験ワークショップ

Nature experience workshop

宮崎 峻

指導教員 比留間 真

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 空間・工業意匠研究室

本研究では、自然教育の大切さや今抱える問題点を理解し、それらを解決し今後活動をしていく子供たちにより良い自然体験を提供できるワークショップを企画、考案する。

キーワード：環境教育、自然体験、ワークショップ、自然学校

1. 研究目的

近年、地球温暖化などの環境問題が世界的に問題となっている。その中には森林伐採などの人間による環境破壊が行われてきたことも原因の一つに挙げられる。これらを少しでも改善させるために自然保護への理解を深める事が解決につながるのではないかと考えた。そこで本研究では、自然体験教育に着目し、新たなプログラムを考案することで体験した子供たちの学習成果や体験の質を向上させ、若いうちからの自然保護への理解をより深めさせることを目的とする。

2. 調査内容

環境問題は、私たちが解決に向かって努力していくことと、その次の世代に自然保護に対する理解を深めていくことが大切である。そのために新たなワークショップを提案するうえで、自然体験教育や環境教育とは何か、さらに自然教育が子供たちに与える影響とメリットについて調査した。まず、環境教育とは「人間と環境とのかかわりについて理解と認識を深め、責任ある行動が取れるよう国民の学習を推進すること」と定義を定め、子供たちが自然と触れ合う活動を通して、自然への理解や子供同士で困難に立ち向かう能力や助けを求められる能力を伸ばすことを目的とした活動のことである。自然体験を多く体験した子供の方が自尊心や問題解決能力が高いという研究結果もあ

り、そのほかにも以下のようなたくさんのメリットがある事が明らかになっている。

1. 現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上。
2. 思考や理解の基盤づくり。
3. 教科等の「知」の総合化と実践化。
4. 社会性や共に生きる力の育成。
5. 豊かな人間性や価値観の形成。
6. 基礎的な体力や心身の健康の保持増進。

また自然教育は取り寄せた年齢によって与えられる効果に差がでることもわかっており、早い段階から体験をさせることで子供達の成長に大きな効果を与える事ができる。

3. ワークショップを体験してみて感じたこと

実際に自然体験ワークショップへ参加し、そこで自分は自然体験ワークショップが抱える問題を実感した。特に感じた問題点は以下の3点である。

- 1.参加している子どもの中には過去に体験をしてきている子供もおり、同じような内容に少し退屈そうにしていた。この点に関しては、自然教育プログラムに対する認識の固定化やプログラム開発不足という点で自然教育全体としての大きな問題となっている。
- 2.体を使うワークショップでは年齢や性別による体力差が出やすくなっていた。
- 3.体験によって何を学んだのかが子供たちの年齢や特性による理解度や表現力の差から全てを読み取ることが難しくなっていた。

4. コンセプトおよびアイデア展開

「子供達の誰もが楽しみながら自然と触れ合えるプログラム」をコンセプトにみんなが楽しみながら自然について考えられるワークショップを考案、企画をした(図1)。実際にワークショップを体験して感じた問題点を解決できるような要素を盛り込み目的を達成できるような企画を考えた。問題点1に対しては、子供たちの創造性を伸ばせるような正解のない各々が自分の思い描くものをのびのびと作り出せるような企画であり、作品の形が変化すること、回を重ねるごとに完成物のクオリティがあがっていくことを楽しむなど、体験数を重ねることにも価値があるものになっている。問題点2に対しては、正解がなくクラフトという体力をあまり必要としない内容なので、体験を通してあまり差が生まれにくいものになっている。問題点3に対しては、森の神様というテーマにより子供達が森などの自然にどのようなイメージを持っているのかをクラフトした作品から読み取れるのではないかと考えられる。そしてそこから子供達にどのような体験を与えればより良いイメージになるのかを考え、その後のワークショップの発展に繋がれると考えた。以上の3点に加え、体験を通して新たな発見を得られるような内容であることも踏まえて新たなワークショップを企画した。今回の提案では自分が実際に参加したワークショップを企画した団体で行うものとして企画書を作成した。

自分の森の神様を作ってみよう
ものづくりを楽しむ「森」について考えてみよう

活動の流れと時間配分：120分

1. はじめの話 (5分)
2. 活動内容や道具の説明 (5分)
3. 森の神様を考えてみる (10分)
4. 体験の森に必要なクラフトの材料集め (30分)
5. 神様をクラフトする (50分)
6. 作った作品の展示会 (10分)
7. 片付け (5分)
8. 終わりのあいさつ (5分)

1グループの隊形：(5~6人ほど)

机 数台置く。

各机に新聞紙、

カッターマットを置く

自然体験ワークショップ 森の神様を作ってみよう			
開催概要			
開催日時	2024年9月28日(土)	開催場所	自然体験センター
対象年齢	小学生～中学生	定員	20名
主催	大学コンソーシアム八王子	協賛	自然体験センター
予備校	準備	1. 自然体験センターの受付にて、参加費の支払いを行う。 2. 参加費の領収書を受け取る。 3. 参加費の領収書を受け取る。 4. 参加費の領収書を受け取る。	
50分程	はじめの回	1. 森の神様を作ってみよう 2. 森の神様を作ってみよう 3. 森の神様を作ってみよう	
1時間程	森の神様を作ってみよう	1. 森の神様を作ってみよう 2. 森の神様を作ってみよう 3. 森の神様を作ってみよう	
2時間程	クラフトに必要な材料集め	1. 森の神様を作ってみよう 2. 森の神様を作ってみよう 3. 森の神様を作ってみよう	
2時間程	クラフト制作	1. 森の神様を作ってみよう 2. 森の神様を作ってみよう 3. 森の神様を作ってみよう	
20分程	作った作品の展示会	1. 森の神様を作ってみよう 2. 森の神様を作ってみよう 3. 森の神様を作ってみよう	
15分程	片付け	1. 森の神様を作ってみよう 2. 森の神様を作ってみよう 3. 森の神様を作ってみよう	
15分程	終わりの回	1. 森の神様を作ってみよう 2. 森の神様を作ってみよう 3. 森の神様を作ってみよう	

図1.ワークショップの企画書

5. ワークショップを実施してみた

「NPO 法人やまぼうし自然学校」さん協力のもと、企画書通りとは行かなかったが実際にワークショップを実施する事ができた。体験中、子供達は、自分たちの思い思いの作品(図2右)をクラフトして体験を楽しんでいる様子がこちらからも確認できた(図2左)。このことから今回のワークショップはとても良いものになったと感じた。

と、企画書通りとは行かなかったが実際にワークショップを実施する事ができた。体験中、子供達は、自分たちの思い思いの作品(図2右)をクラフトして体験を楽しんでいる様子がこちらからも確認できた(図2左)。このことから今回のワークショップはとても良いものになったと感じた。



図2. (左) 体験中の様子 (右) クラフトした作品

6. 結論及び今後の展開

企画書通りとは行かなかったものの、子供達に自分の提案したワークショップを通して新しい発見と楽しみを提供できたのではないかと考える。今後は実際にワークショップを実施してみて出てきた問題点を解決していくとともに、このワークショップを普及させていくためにはどのような要素が必要なのかを探し、その要素を盛り込んだ新たなワークショップを企画していきたい。

7. 参考文献

[1] “野外教育の現状と課題”. 文部科学省.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/003/toushin/960701c.htm
(参照 2024-9-28)

[2] “1.1.体験活動の教育的意義”. 文部科学省.
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/04121502/055/003.htm (参照 2024-10-20)

[3] “自然体験教室とは？ジャンルで分ける自然体験教室を解説”. BUBing! . (2023) <https://bub-resort.com/column/1687/> (参照 2024-10-24)

[4] “環境教育 6-1) 日本における環境教育・自然保護教育”. 環境省.
<https://www.env.go.jp/earth/coop/coop/materials/07-ttmncj/07-ttmncj-6.pdf>
(参照 2024-10-24)